シンポジウム報告

『積雪の構造と変質に関するワークショップ』開催報告

山口　悟[1)]，平島寛行[1)]

1.　はじめに

防災科学技術研究所主催の『積雪の構造と変質に関するワークショップ』が，下記の日程で新潟県長岡市にて開催された．本ワークショップの目的は，積雪に関する観測や実験，理論，モデルを研究している研究者間の情報交換を通じ，研究の現状と今後の推進すべき方向について議論するというものであった．ワークショップ当日は年度末の忙しい時期にも関わらず 87 名の参加者があり，活発な議論が行われた．

記

日　時：2010 年 3 月 19 日（金）
場　所：パストラル長岡
主　催：防災科学技術研究所
共　催：日本雪氷学会北信越支部
＜プログラム＞
＜第一部：9：40-10：40＞
荒川　逸人：積雪の通気度に関する研究
尾関　俊浩：雪氷の NMR イメージング―積雪内の水の可視化―
＜第二部：11：00-12：00＞
渡辺　晋生：土壌の分野における不飽和透水係数のモデル化に関する研究
山口　　悟：積雪内の水の移動に関する研究
＜第三部：13：30-14：30＞
青木　輝夫：気候モデリングのための積雪変態・アルベドモデル
兒玉　裕二：既存積雪モデルの比較
＜第四部：14：50-16：10＞
Michael Lehning：Progress in measuring and modeling Alpine snow dynamics at SLF Davos
Edward E. Adams：Development and importance of near surface snow microstructure
＜記念講演：16：30-17：30＞
佐藤　篤司：雪粒子から雪害さらに地球環境研究を試みて

2.　発表内容

午前中の二つの部の共通テーマは，“積雪内部の水”という古くて新しい問題であった．発表内容も積雪の通気度や水分特性の測定など古典的な実験手法を用いて得られた新たな知見に加え，積雪内部の水に関する新しい測定手法（NMR）に関する研究，多孔質体内の水の移動に関する土壌分野の最新の研究と多岐にわたるものであった．

午後の二つの部では，実験や観測に基づいた“積雪のモデル”に関する問題を取り上げた．一言で積雪のモデルと言っても，積雪表面のアルベドのモデル化や積雪変質モデルの山岳域への適応に

ワークショップの様子

1）防災科学技術研究所

関する最先端研究などモデル自体に関する話題に加え，様々な積雪モデルを日本の雪に適応した際のパフォーマンスに関する比較研究や表面付近の霜の発達に関する研究と様々な観点からの発表があった．

記念講演では，今年 3 月に防災科学技術研究所を退職した佐藤篤司氏が，専門家向けだけではなく一般の人にもわかりやすく雪氷研究の魅力について講演を行った．

3. まとめ

既に各学会等で発表されている内容を一部含む発表もあったが，積雪というテーマに特化したワークショップということで，学会とは又違った視点の議論を行うことができた．防災科学技術研究所が主催として行う積雪に関するワークショップとしては，2003 年 11 月に長岡で行われた「積雪変質モデルに関する国際ワークショップ」についで，今回は 2 回目の開催であったが，情報化が進み科学技術の発展が著しい中，積雪の研究が他分野に遅れを取らないためも，今後このようなワークショップを定期的に開催し研究者間の密な情報交換を行っていきたいと考えている．

なお，当日に配布したアブストラクト集は，下記の防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの web 内で pdf ファイルとして公開されている．

（2010 年 6 月 3 日受付）